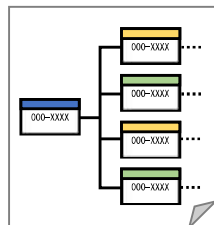


7. 行動計画

< 予防期 >

- 地域への防災に対する啓蒙のために合同訓練・研修を主催する
- 災害発生時の連絡網を整備する
- 各単町に対し備蓄品・災害対応資機材の情報を提供する
- 地域の災害ログ（熊出没等）の収集・公開を行う



< 発災直前（主に水害時） >

- 気象庁からの警報発令を契機に LINE で一斉連絡（注意喚起）を行う



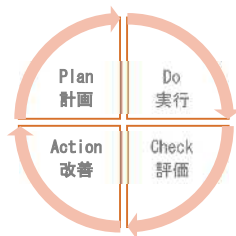
< 発災・対応期 >

- 町連の連絡網（LINE）を使った情報収集・情報共有を行う
- 行政、警察・消防・学校・病院、他町連との連絡・交渉を行う
- 被災状況、避難所開設状況、在宅避難状況の把握に努め、その被災避難情報の発信を行う



< 復興期 >

- 罹災証明の窓口および助成金の紹介、支援金・義援金受付（用途配分の検討）を行う
- 仮設住宅（貸家を含む）の設置支援を行う
- 計画の検証と見直し（PDCA）を実施する



西岡町内会連合会地区防災計画

地区防災計画

令和6年10月

1. はじめに

阪神淡路大震災以降、自然災害に対して危機管理が叫ばれるようになり事前の対応の必要性が明らかとなった。一方、東日本大震災を経て災害発生時における「行政機関による初動対応の限界」が顕著となり、自らの命は自らで守る「自助」と地域防災として「共助」の大切さが指摘されているところである。

西岡地区町内会連合会（以下 町連と記述）としても「共助」による地域防災力のアップのために地区防災計画に取り組むものである。

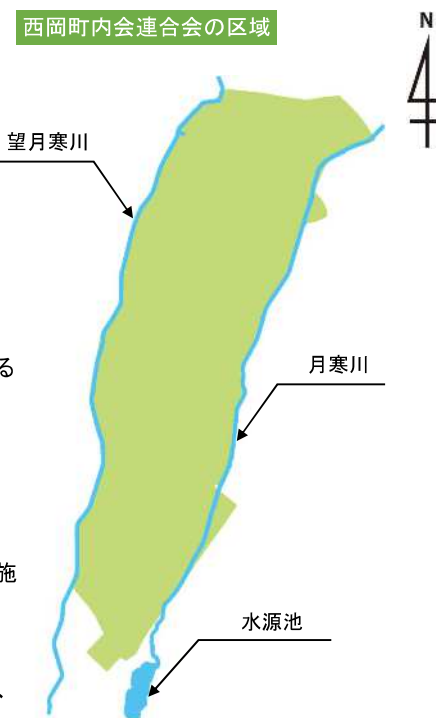
2. 地域の特性

[自然特性]

- 南北に長い地区である
- 水源池がある
- 丘陵地であり傾斜地が多い
→ がけ崩れの可能性あり
- 月寒川と望月寒川にはさまれている
→ 河川の氾濫の可能性あり
- 月寒断層がある
→ 直下型地震の可能性あり
- 地区の後背地に豊かな山林が形成されている
→ 山林火災の可能性あり
- 沿岸からは遠く、津波被害の心配はなし

[社会特性]

- 木造住宅、戸建て住宅が多い
- 高齢化が進み、要介護者の数や高齢者向け施設の数が増えている
- 大学があり学生が多い
- 交通の要衝（羊ヶ丘通、五輪通、水源池通、福住桑園通など）



3. 想定される自然災害

[地震]

- 2018年9月6日に発生したブラックアウトは2日間におよび、道路では信号が消え、マンションの断水など様々な影響を及ぼした。
- 月寒断層による直下型地震が発生する可能性があり、住宅の損壊のほか、余震の不安により相当数の避難者が想定される。



[風水害]

- 西岡地区は大木が多く、2019年の台風による強風で大木が倒れ、さらに停電と共聴テレビの停波を招いた。
- 月寒川と望月寒川にはさまれており、河川氾濫の可能性がある。しかし被害世帯数は少ないものとみられ、被害にあった家屋の近くの避難所のみで対応可能と想定される。

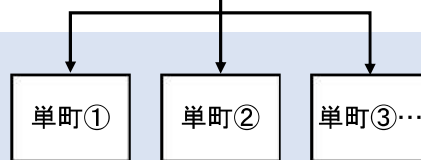


4. 町連と単町の関わり

[町連の役割]

- 情報/連絡体制の確保
- 単町、自治会間の連絡および情報共有
- 単町間の役割統制、リソースの調整
- 町内会をまたがる事案の調整や手配
- 行政との窓口、対外交渉の窓口

町連



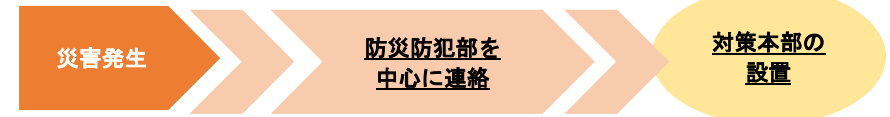
[単町の役割]

- 避難救援の実行
- 自主防災規定を持つ単町は自主防災規定の運用を優先

- ・ 町連の防災計画と単町の防災計画はそれぞれの役割を反映して作成する。
- ・ 単町で防災計画を作成する場合には町連に連携する項目（連絡体制等）を盛り込むことを要する。

5. 町連の組織体制

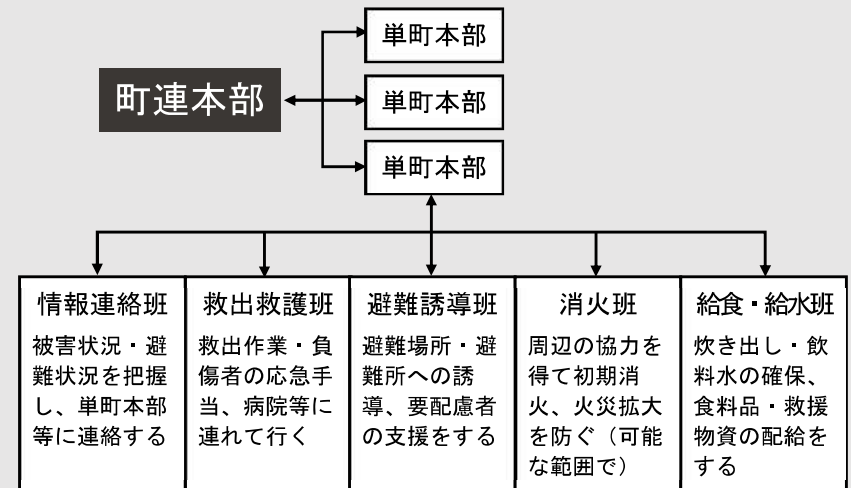
災害発生時の町連の対策本部は防災防犯部を中心として連絡ネットワークによって確立する。



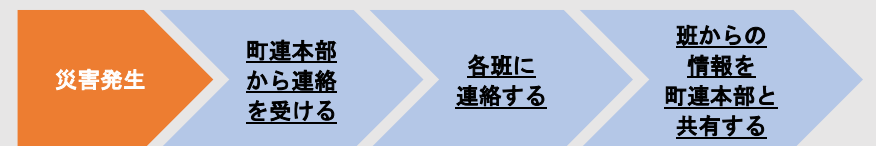
6. 単町防災本部の組織図モデルケースと動きの例【参考】

参考として、災害発生時に単町で防災本部を設置する際の組織図のモデルケースと、単町本部の動きの例を示す。

[組織図のモデルケース]



[単町本部の動きの例]



- ・ すでに規定のある単町は、その規定での運用を優先する。
- ・ あくまで参考であり、単町の実状に合わせる。



想定される揺れの強さ

- 震度7
- 震度6強
- 震度6弱
- 震度5強
- 震度5弱

土砂災害警戒区域

・お年寄りが多い(団地)
 ・移動が困難
 ・若い人が少ない
 ・避難所ではなく、近所の頑丈な家に避難
 ・アメニティに避難

凡例

- 指定緊急避難場所兼 指定避難所(基幹)
 - 災害から身を守るため緊急に避難する場所です。
 - 災害の種類ごとに指定しています。
- 指定緊急避難場所
 - 地震時に使用できない指定緊急避難場所
- 指定避難所(地域)
 - 避難者が一時的に滞在する施設です。
 - 施設管理者等により必要に応じて開設されます。

凡例

- 自宅
- 単位町内会
- 避難ルート
- 危険箇所
- 危険箇所意見
- その他意見

(丸) JR・駅
 (丸) 市電・駅
 (丸) 地下鉄・駅
 国道・主要道路
 区界

シラカバの木が倒木する危険有

盛土

土砂災害の危険有

ゴルフ場のネット・鉄塔が倒れる危険有

落差があり(4m程度)擁壁が倒壊する危険有

信号がありブラックアウト時に交通が滞る可能性有

現在住宅地

各橋が崩落する可能性有

擁壁が倒壊した際のルート

駐車場を避難場所として活用(許可が必要)

擁壁がある(3m程度)

橋が崩落する可能性有

昔川があり、液状化の可能性有

高圧電線が倒れる可能性有

札幌平岸高校

平岸高台小

区センター

登川小

西岡児童会館

西岡北小

札幌大学

南月寒小

札幌第一高校

福住寺

福住駅

羊丘中

福住地区

西岡会館

A

